SHOWA fine various reagents

安全データシート（ＳＤＳ）

1.化学品及び会社情報

昭　和　化　学　株　式　会　社
東京都中央区日本橋本町４－３－８
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡　　同　上
改訂日　　2026/09/02
SDS整理番号　01340970

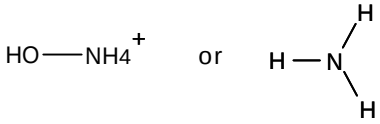
製品等のコード　：　0134-0970

化学品の名称　：　アンモニア水 1.5%

推奨用途　：　試験研究用

使用上の制限　：　推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと

2．危険有害性の要約



ＧＨＳ分類

物理化学的危険性
- 引火性液体　：　区分に該当しない
- 自然発火性液体　：　区分に該当しない
- 自己発熱性化学品　：　区分に該当しない

健康に対する有害性
- 急性毒性（経口）　：　区分に該当しない
- 皮膚腐食性/刺激性　：　区分2
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性　：　区分2
- 特定標的臓器毒性（単回ばく露）　：　区分2（中枢神経系，呼吸器）

環境に対する有害性
- 水生環境有害性 短期(急性)　：　区分に該当しない

注意喚起語　：　警告

危険有害性情報
- 皮膚刺激
- 強い眼刺激
- 中枢神経系，呼吸器の障害のおそれ

注意書き
【安全対策】
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
この製品を使用するときに，飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
【応急措置】
皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はその懸念がある場合：すぐに救急の医療処置を受けること。
皮膚刺激が生じた場合：医療処置を受けること。
眼の刺激が続く場合：医療処置を受けること。
汚染された衣類を脱ぎ，再使用する場合には洗濯をすること。
【保管】
該当なし

【廃棄】
内容物/容器を国，都道府県または市町村の規定により廃棄すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	：	混合物（アンモニアの水溶液）
化学名、一般名、製品名	：	アンモニア水 1.5%
成分及び含有量	：	水酸化アンモニウム、1.5～1.6%（NH3として）
分子量	：	35.05　(NH3：17.03)
化学式及び構造式	：	NH4OH(水溶液中) 又は　NH3、　構造式は上図参照(1ページ目)。
官報公示整理番号 化審法	：	(1)-314
安衛法	：	公表化学物質（化審法番号を準用）
ＣＡＳ　Ｎｏ．	：	1336-21-6（アンモニア水、水酸化アンモニウム）、7664-41-7（ＮＨ3）
危険有害成分	：	水酸化アンモニウム

4.応急処置

吸入した場合	：	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
皮膚に付着した場合	：	皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激が生じた時は医師の診断、手当を受ける。 汚染された衣類を脱ぎ、汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
眼に入った場合	：	直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。 その後も洗浄を続ける。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	：	口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、体内で希釈する。 気分が悪い時は、医師の診療を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状： 情報なし

5．火災時の措置

適切な消火剤	：	水、粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂
使ってはならない消火剤	：	棒状放水（本品があふれ出し、生物に対する有害性や環境汚染を引き起こすおそれがある。
火災時の特有の危険有害性	：	火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 アンモニアの蒸気はある条件下で引火性、爆発性である。 加熱により、アンモニアガスが発生することがあるので気をつける。
特有の消火方法	：	火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 こぼれた液を希硫酸などの希酸で注意深く中和する。 残留分を多量の水で洗い流す。
消火を行う者の保護	：	消火作業の際は、空気呼吸器を含め完全な防護服（耐熱性）を着用する。

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	：	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項	：	河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和	：	漏洩物は、ウエス、雑巾または土砂等に吸着させて、空のプラスチック製容器に回収後、希酸（希塩酸、希硫酸、酢酸等）で中和し廃棄処分する。 後処理として、漏洩場所は希酸で中和した後、多量の水を用いて洗い流す。
封じ込め及び浄化の方法・機材	：	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	：	事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7．取扱い及び保管上の注意

取扱い
技術的対策　：本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
容器をよく振った後、開封して使用する。
使用した液は、元の容器に戻さない(濃度が変化するおそれがあるため)。
局所排気・全体換気　：換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項　：すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの
取扱いをしてはならない。
漏洩すると、材料を腐食させることがある。
ミスト、蒸気、気体（ガス）を吸入しない。
皮膚、粘膜等に触れると、刺激、炎症を起こすことがある。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
接触回避　：湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管
技術的対策　：保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。
保管場所は、採光と換気装置を設置する。
安全な保管条件　：容器は直射日光を避けて保管する。
容器を密閉して保管する。
混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質　：強酸、金属、水反応可燃性物質
安全な容器包装材料　：ポリエチレン、ポリプロピレン等

＜参考＞　室温での安全な容器包装材料の耐薬品性（あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要）

本品の情報なし。
参考のため、30%アンモニア水のデータを示す。

【 ◎:良好　○:やや良好(条件による)　△:やや不良　　×:不良　　－:データなし 】

スチレンゴム○　クロロプレンゴム(ネオプレン)◎　ニトリルゴム◎　ブチルゴム○
天然ゴム◎　シリコーンゴム◎　フッ素ゴム(バイトン、ダイエル)－　テフロン◎
軟鋼○　ステンレス（SUS304○　SUS316○）　チタン◎　アルミニウム△　銅△
軟質塩ビ◎　硬質塩ビ◎　ポリスチレン◎　ＡＢＳ◎　ポリエチレン◎　ポリプロピレン◎
ナイロン◎　アセタール樹脂◎　アクリル樹脂◎　ポリカーボネート◎　ガラス○

8．ばく露防止及び保護措置

管理濃度　：　未設定
許容濃度等（職業ばく露限界値、生物学的許容値）：
日本産衛学会　25 ppm（17mg/m3）（ＮＨ3として）
ACGIH　TLV-TWA　25 ppm （ＮＨ3として）
TLV-STEL　40 ppm（ＮＨ3として）
設備対策　：この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワー
を設置する。
取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具
呼吸器の保護具　：呼吸器保護具〔アンモニア(ＮＨ3)用防毒マスク〕を着用する。
手の保護具　：保護手袋（塩ビ製、ニトリル製など）を着用する。
眼の保護具　：適切な眼の保護具を着用する。
保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）
皮膚及び身体の保護具：顔面用の保護具を着用する。
一切の接触を防止するにはネオプレン製の、手袋、エプロン、ブーツ、
又は全体スーツ等の不浸透性の防具を適宜着用する。
しぶきの可能性がある場合は、全面耐薬品性防護服及びブーツが必要
である。
衛生対策　：取扱い後はよく手を洗う。

9．物理的及び化学的性質

物理状態
性状　：液体
色　：無色澄明
臭い　：わずかに刺激臭
pH　：強アルカリ性、約11　（28%）
融点　：約0℃
凝固点　：データなし

沸点	：	約100℃
引火点	：	データなし
可燃性	：	不燃性（アンモニア水自体は不燃性であるが、アンモニアガスは引火性がある。）
爆発範囲	：	データなし
蒸気圧	：	データなし
相対ガス密度（空気 = 1）	：	データなし
密度又は相対密度	：	データなし
比重	：	1.0（20/20℃）
溶解度	：	水、エタノールと任意の割合で混和する。
オクタノール/水分配係数	：	データなし
自然発火点	：	データなし
分解温度	：	データなし
臭いのしきい（閾）値	：	データなし
粘性率	：	データなし
動粘性率	：	データなし
粒子特性	：	データなし

10．安定性及び反応性

【アンモニア水（28%）のデータ】

安定性（反応性・化学的安定性）	：	通常の取扱条件において安定である。 ＮＨ3ガスとして揮散しやすいので冷所に保管する。
危険有害反応可能性	：	水溶液は強塩基であり、酸と激しく反応する。 多くの金属を侵して引火性/爆発性気体(水素)を生じる。 例：ニッケル、銅、アルミニウム、亜鉛、すず及びこれらの合金を腐食する。 多くの重金属やその塩と反応し、爆発性化合物を生成することがある。 例：水銀、銀イオン、塩素、よう素、及び強酸化剤と反応し、爆発の危険をもたらす。 希薄な水溶液でも腐食性が強い。 加熱すると、有毒なアンモニアガスが発生する。 ヨードチンキが混入すると、爆発性物質を生ずることがある。
避けるべき条件	：	高温、日光
混触危険物質	：	酸、金属
危険有害な分解生成物	：	窒素酸化物

11.有害性情報（NITE-CHRIPのGHS分類情報があれば、それに従う。）

【アンモニア水 28%〔CAS No 1336-21-6〕のデータ】

急性毒性	：	経口 飲み込むと有害（区分4） 経皮 分類できない。 吸入（蒸気） 分類できない。 吸入（ミスト）分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	：	重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷（区分1）
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	：	重篤な眼の損傷（区分1）
呼吸器感作性	：	分類できない。
皮膚感作性	：	分類できない。
生殖細胞変異原性	：	分類できない。
発がん性	：	分類できない。
生殖毒性	：	分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	：	中枢神経系、呼吸器の障害 （区分1）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	：	分類できない。
誤えん有害性	：	分類できない。

12.環境影響情報（NITE-CHRIPのGHS分類情報があれば、それに従う。）

【アンモニア水 28%〔CAS No 1336-21-6〕のデータ】

生態毒性		
水生環境有害性 短期(急性)	：	水生生物に有害（区分3）
水生環境有害性 長期(慢性)	：	区分に該当しない。
残留性・分解性	：	良分解性（水生環境中で速やかに硝化）
生物蓄積性	：	生物蓄積性は低い（logKow= -2.66）
土壌中の移動性	：	データなし
オゾン層への有害性	：	分類できない。

13．廃棄上の注意

残余廃棄物　：廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
（参考）中和法
廃液のアルカリ度に応じた希酸(希塩酸、希硫酸等)を徐々に加えて中和し大量の水と共に排水処分する。

汚染容器及び包装　：内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14.輸送上の注意

国内規制（適用法令）
陸上規制　：特段の規制なし（分類上、非危険物）
海上規制　：特段の規制なし（分類上、非危険物）
航空規制　：特段の規制なし（分類上、非危険物）
国連番号　：非該当
国連分類　：非該当
品　　名　：非該当
海洋汚染物質　：非該当
特別の安全対策　：輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
重量物を上積みしない。
移送時にイエローカードの保持が必要。

15．適用法令

労働安全衛生法　：名称等を表示すべき危険物及び有害物
（政令番号　第152号「アンモニアを0.2%以上含有するもの」）
名称等を通知すべき危険物及び有害物
（政令番号　第152号「アンモニアを0.1%以上含有するもの」）
（規則別表第2）
皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質
・特化則等の特別規則「アンモニア、対象重量%は≧１」
（安衛則第594条の2）
特定化学物質等、第三類物質「アンモニア、対象重量%は＞１」
（特定化学物質等障害予防規則、別表第3第3号1）

なお、がん原性物質および濃度基準値設定物質に非該当
（安衛則第577条の２）

化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）：非該当〔2023年(R5年)4月1日施行の法改正にも非該当〕
消防法　：非該当（アンモニア30%以下を含有するものは消防活動阻害物質から除外）
毒劇法　：非該当（NH3含有量が10%以下のものは劇物から除外される）〕
船舶安全法　：非該当
航空法　：非該当
海洋汚染防止法　：非該当
水質汚濁防止法　：有害物質（施行令第二条第２６号）
「アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物」
〔排水基準〕100mg/L　（アンモニア性窒素×0.4、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の合計量）
大気汚染防止法　：特定物質「アンモニア」（政令第10条第1号）
悪臭防止法　：特定悪臭物質（法第二条第一項、施行令第一条）
「アンモニア」
・敷地境界線における特定悪臭物質の濃度に係る規制基準の範囲：
大気中における含有率が百万分の一以上百万分の五以下
〔1ppm〕　〔5ppm〕
（施行規則第二条）
・参考データ（アンモニア濃度と臭気強度の関係）：
アンモニア濃度　臭気強度

10 ppm ---------- 4
1 ppm ---------- 2.5
0.1 ppm ---------- 1

輸出貿易管理令　：キャッチオール規制（別表第１の１６項）
HSコード：2814.20
第28類 無機化学品
・輸出統計番号（2026年1月版)：2814.20-000
「無水アンモニア及びアンモニア水
－アンモニア水」
・輸入統計番号（2026年4月1日版)：2814.20-000
「無水アンモニア及びアンモニア水
－アンモニア水」

16.その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献　：

化学物質管理促進法PRTR･MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険･有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM	
NITE-CHRIPのGHS分類情報	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点においての知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2025に準じ作成しています。